

インフォメーション・コーナー

会 告

○代議員支部候補者の立候補について 届出締切 4月6日	76
○平成 27 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について (再) 申請締切 4月10日	77
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	77
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	77
○平成 28 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3月31日	78
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	79
○International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2015 国際会議 の開催について (第 1 報)	80
○第 7 回世界水フォーラム (WWF7) の開催について	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	81
○国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 26 回欧州地域会議における発表論文の募集について 要旨提出締切 3月16日	81
学会記事	83

会員のみなさまへ

- 1) 平成 27 年 1 月末時点で平成 26 年度会費が未納の方へ、再度請求書をお送りしております。3 月末日までにお納め下さい。
- 2) 転職・転居などで個人情報に変更が生じた方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡下さい。詳細はホームページをご覧ください。

※各職場の連絡委員のみなさま、周知・取りまとめのほど、よろしく願いいたします。

第 83 巻第 4 号予定

展望: 農業の構造改革を踏まえた今後の水管理の展望: 印藤久喜

小特集: 次世代型の水利システムの姿

- ①次世代型農業水利システムへの計画設計の方向: 中 達雄ほか
- ②担い手水田農業展開後の灌漑管理システムへの提言: 石井 敦
- ③現地踏査による農業水利システムの水利用性能実態の調査診断: 鈴木哲也ほか
- ④ネットワークの特性から見た水利システム再編の考え方: 樽屋啓之ほか
- ⑤水利システムの幹線水路から末端ほ場までの水利用性能の可視化: 姜 華英ほか
- ⑥水田稲作向けの ICT を活用した農業水利情報サービスの提供: 飯田俊彰ほか
- ⑦利水者ニーズ指向型の水路システムへの改築: 小西邦寿ほか

技術リポート

- 北海道支部: 取水塔制水ゲートの腐食原因と対策工検討: 鈴木 稔
 東北支部: 小水力発電を活用した猿害対策モデル事業: 本間康宏ほか
 関東支部: 神奈川県における農業用水路を活用した小水力発電の事例: 小野 浩
 京都支部: 丹後国営開発農地における新規就農を支援する農場整備工事: 西尾吉生
 中国四国支部: 調整池水面を利用したフロート式メガソーラーの導入: 中藤直孝ほか
 九州沖縄支部: 「西諸畑かん」とハウレンソウ栽培における施肥効果の向上: 横山雅敏ほか

小講座: 次世代型農業水利システム: 志村和信

私のビジョン: 中田 達

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成27年6月18日	資源循環研究部会	平成27年度研究発表会 Ⓟ	バイオマスを利活用した循環型の地域づくりに向けて	東京都	83巻2号
平成27年9月1~4日	大会運営委員会	平成27年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	岡山市	82巻12号 83巻1号

代議員支部候補者の立候補について

農業農村工学会北海道支部長・東北支部長・関東支部長・京都支部長・中国四国支部長・九州沖縄支部長

農業農村工学会 正会員・名誉会員各位

今期の代議員は、平成27年5月で任期満了となりますので、次期の代議員を選出することとなります。

農業農村工学会定款第12条の規定及び代議員選挙規程により、代議員の候補者を選出するため、下記のとおり立候補者の募集を行います。

記

- 立候補は、所属支部の複数の正会員又は名誉会員の推薦を受けた正会員及び名誉会員に限ります。
- 立候補の届出先は、所属支部の代議員選挙管理委員会です。
- 立候補の届出の締切は、平成27年4月6日です。
- 各支部の代議員定数は、次のとおりです（正式には、平成27年3月16日の第236回理事会で決定）。
北海道支部10名、東北支部17名、関東支部30名
京都支部25名、中国四国支部15名、九州沖縄支部16名
- ご不明の点は、学会本部事務局総務部長にお問い合わせ下さい。

(参考)

- 農業農村工学会定款（抜粋）
第12条 この法人の社員は、概ね正会員及び名誉会員80人の中から1人の割合をもって選出される代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第11条第1項第5号等に定める社員とする（端数の取扱いについては理事会で定める。）。
- 代議員を選出するため、正会員及び名誉会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な規程は理事会において定める。
- 代議員は、正会員及び名誉会員の中から選ばれることを要する。正会員及び名誉会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。
- 第2項の代議員選挙において、正会員及び名誉会員は他の正会員及び名誉会員と等しく代議員を選挙する権利を有する。理事又は理事会は、代議員を選出することはできない。

- 第2項の代議員選挙は、2年に1度、5月に実施することとし、代議員の任期は選任の2年後に実施される代議員選挙終了の時までとする。ただし、代議員が総会決議取消しの訴え、解散の訴え、責任追及の訴え及び役員解任の訴え（法人法第266条第1項、第268条、第278条、第284条）を提起している場合（法人法第278条第1項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員は代議員たる地位を失わない。ただし、当該代議員は、役員選任及び解任（法人法第63条及び第70条）並びに定款変更（法人法第146条）についての議決権を有しないこととする。

2. 代議員選挙規程（抜粋）

(候補者の募集及び選挙の期日)

- 第4条 支部長は、代議員の任期満了の2ヶ月前までに当該支部の正会員及び名誉会員に対し、学会誌等を通じて、代議員候補者を募集する旨の広報を行うものとする。
- 支部長は、選挙の期日を代議員の任期満了の10日以前の日を指定して定め、広報するものとする。
- 前2項の広報は、支部長に代わって会長が行うことができるものとする。

(選挙執行者)

- 第5条 この選挙の執行者は、当該支部の選挙管理委員会とする。

(候補者の届出)

- 第6条 正会員及び名誉会員で代議員に立候補する者は、当該支部の複数の正会員又は名誉会員の推薦を受け、当該支部の選挙管理委員会に、所定の日までに届け出るものとする。

(推薦する候補者の選考・届出)

- 第7条 支部代議員候補者選考委員会は、推薦する代議員候補者を選考し、支部長を経て選挙管理委員会委員長に届け出るものとする。

- 前項の代議員候補者には、前条の立候補者を含めることができるものとする。

(代議員選挙候補者の周知)

第8条 選挙管理委員会は、所属支部の正会員及び名誉会員に対し、前2条により届出のあった代議員候補者の所属・氏名を周知する。

2 前項の周知については、各支部の選挙管理委員会に代わって会長が行うことができるものとする。

平成 27 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成27年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
- (2) 平成27年度中（平成27年4月から28年3月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助

する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 平成27年4月10日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

公益社団法人 農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加すること

ができ、通信教育分【ac】として年間最大24CPDを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌3月号掲載の問題は4月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2CPDを、7～9問正解で1.5CPDを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPDは、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成28年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成28年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記**1. テーマ**

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第84巻（平成28年1～12月号）**3. 写真の種類**

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 秋季～冬季 平成27年3月31日

春季 平成27年6月30日

夏季 平成27年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限り

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。**7. 結果発表**

学会誌第84巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成28年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係
☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 83 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
83 巻 4 号	次世代型農業水利システムの姿	公募終了
5 号	国際土壌年 2015 特別企画： かけがえない土壌のために農業農村工学ができること、すべきこと（仮）	公募終了
6 号	大会特集号（中国四国支部）（仮）	公募なし
7 号	日本の技術・知識・経験を世界の現場に生かす（仮）	公募終了
8 号	東日本大震災後の放射能汚染を受けた農業農村地域における生産活動・コミュニティ運営にかかわる問題の現状と対策（仮）	3月16日
9 号	農業農村整備事業における気候変動への適応（仮）	4月15日
10 号	農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後（仮）	5月15日
11 号	水土の知を次世代と（仮）	6月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

83 巻 8 号テーマ「東日本大震災後の放射能汚染を受けた農業農村地域における生産活動・コミュニティ運営にかかわる問題の現状と対策」(仮)

東日本大震災からまもなく 4 年となり、被災地で復旧・復興事業が進みつつある一方で、福島第一原子力発電所の事故は放射性物質の汚染によって国土および海洋に大きな被害をもたらす、解決の糸口がつかめない状況となっています。

わが国で放射性物質がこれほど大量に生態系に入り込むという経験はなく、その挙動や地域環境に与える影響についての科学的な知見は十分に持ち合わせていないのが実状です。そのような中で、農地汚染や森林汚染などの状況と特徴が徐々に解明され、除染や農地修復などへの対策が進められておりますが、いまだ営農を再開できない農地は多く、それに加えて除染農地の管理や農産物の風評被害、コミュニティの変容などの多くの

問題が顕在化してきました。

これらの問題に対するさまざまな取組みが行われるようになっている現在、実状を捉え直して今後の対策への足がかりとすることが非常に重要であると考えられます。福島第一原子力発電所による放射性物質の飛散・汚染事故を経て、新たに生じてきた農業農村地域の生産活動やコミュニティ運営にかかわる諸問題（営農の不本意な休止とその再開に向けた取組み、農産物の風評被害の実情とその克服、農村集落のコミュニティ分断（住民の離散など）とその解消に向けた取組みなど）について、広く、調査研究、ならびに行政的あるいは技術的な対策・取組みの状況や成果に関する報文を募集します。

83 巻 9 号テーマ「農業農村整備事業における気候変動への適応」(仮)

近年、稲、果樹をはじめとする農産物などにおいて、高温による生育障害や品質低下への対応に多くの努力が払われております。一方、観測記録を塗り替える高温や豪雨、大雪による大きな災害が頻発し、今後も温暖化とともに極端な気象現象の頻発が予測されています。このような気候変動に備えるには、技術開発や各種施策の転換などを計画的に進める必要があります。

これらの状況を踏まえ、気候変動に対する政府全体の適応計画を平成 27 年夏頃に策定することを目指し、関係府省が連携して検討が進められています。

農地、農業用水、土地改良施設などの農業生産基盤においても、平均気温の上昇に伴う蒸発散量の増加による農地の乾燥化、融雪利用可能水量の減少、水利施設の排水能力の不足など

の影響が予測されており、気候変動への適応が求められています。

そこで、本小特集では農業農村整備事業の幅広い視点から気

候変動への適応に関する取組みについて、適応の前提となる影響評価に関する調査研究、高温障害や豪雨などへの対策に関する調査研究や現場報告など報文を広く募集します。

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2015 国際会議 の開催について (第1報)

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) の国際会議は、2015年8月19～21日、マレーシア、クアラルンプールで開催されます。

1. 会議の主題

「Solutions for Sustainable Water and Environmental Management」

2. 会議の課題

1. Technology for sustainable water use and agricultural development.
2. Modernization of irrigation and drainage schemes.
3. Establishment of sustainable paddy farming for food security and poverty alleviation.
4. Water quality management for agriculture and environment.
5. Integrated watershed management.
6. Droughts and flood disaster risk management.

3. 論文の提出

詳細はホームページ (<http://pawees.net/>) をご参照下さい。

アブストラクト提出 2015年4月30日

受領通知 2015年5月15日

フルペーパー提出 2015年7月15日

4. 日程

1日目 PAWEES-INWEPF Joint International Conference 2015

2日目 PAWEES-INWEPF Joint International Conference 2015 (cont.)

3日目 Technical tour (Integrated Agricultural Development Area Northwest, Selangor)

5. 場所

Universiti Putra Malaysia (UPM)
Selangor Darul Ehsan, Malaysia

6. 問合せ

Prof. Ir. Dr. Mohd Amin Mohd Soom

Department of Biological and Agricultural Engineering,

Faculty of Engineering, Universiti Putra Malaysia

E-mail : aminms@upm.edu.my

pjijc2015@confbay.com

第7回世界水フォーラム (WWF7) の開催について

第7回世界水フォーラムは、“Water for Our Future”をテーマに2015年4月12～17日、韓国テグ(大邱)市およびキョンジュ(慶州)市で開催されます。

学会は、分野別プロセスのセッション“Modernization of irrigation/drainage schemes for food security, rural prosperity and poverty alleviation”に、国際水田・水環境工学会(PAWEES)とともに参画します。

また、日本パビリオンの“Water for Food”のグループ(農林水産省、JIRCAS、農業農村工学会)に出展し、PAWEESと農業農村工学会の活動をPRするポスターの展示とパンフレットの配布を行います。

WWF7の詳細については、下記URLをご覧ください。

<http://eng.worldwaterforum7.org/>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年 4 回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2015年1月から2017年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering)の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2015年1月に Vol.13, No.1 が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.247 と高い評価を得ております。

また、世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局は韓国です。
投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局: Professor Dr. Jin-Yong CHOI
Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology
Rural Water and Information Engineering Lab.
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742
TEL: +82.2.880.4583 FAX: +82.2.873.2087
E-mail: iamchoi@snu.ac.kr

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。
その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、

土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief: Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 23 名
- ・ Editing Board 26 名
- ・ Chief Management Editors
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
Dr. Yoshiyuki SHINOBI
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- ・ Managing Editors
Dr. Haruhiko HORINO
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan
Dr. Kazunari FUKUMURA
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Ming-Daw SU
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社: Springer-Japan 社
投稿資格: 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。
投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 26 回欧州地域会議における発表論文の募集について

2015 年 10 月 11 日から 16 日にかけて、フランス・モンペリエにおいて、ICID 第 26 回欧州地域会議が開催されます。

ICID 日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。

詳細は、http://www.icid.org/call_for_paper_icid_2015.pdf の Call for Paper でもご覧いただけます。

投稿をご希望の方は、論文要旨 (Short abstract) を電子ファイルにてご提出下さい。同時に、日本語での論文要旨も作成し、ご提出下さい (提出先:jncid@nm.maff.go.jp)。お送りいただく論文要旨を日本国内委員会にて査読させていただいた後、ICID フランス国内委員会へご自身で提出いただく流れとなります。(インターネットからのオンライン投稿:<http://icid2015.sciencesconf.org/resource/page?id=1&lang=en>にてアカウントを作成し、投稿できます。)

1. 会議開催概要

開催期間: 2015年10月11日(日)~16日(金)

開催場所: フランス・モンペリエ

2. 募集トピック

募集トピックは以下のとおりです。各トピックの詳細は下記 URL をご覧下さい。

http://www.icid.org/call_for_paper_icid_2015.pdf

Main theme: Innovate to improve irrigation performances

Three sub-themes:

<Drip irrigation for water saving: the winning formula?>

- What is the current development of drip irrigation in the different countries of the world?

- What are the respective roles of private and public funding of on farm irrigation?

- What is the level of performance of drip irrigation systems at the farm and at regional levels?

<What potential for wastewater use in agriculture?>

- What are the lessons learnt from the use of wastewater in agriculture?

- What are the health and environmental consequences?

<What governance for groundwater use in agriculture?>

- How to define groundwater governance rules and

institutions from local experiences?

- How to integrate governance of surface water and groundwater?

3. 使用言語 英語またはフランス語

4. 提出期日 2015年3月16日(月)

5. 提出先 jncid@nm.maff.go.jp

6. 作成要領

(1) Short abstract として A4 に 1/2 ページ以下で作成。

(2) ページ冒頭に論文タイトル, 著者・共著者名を記載。同ページ下部に所属, 住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレスを記載。

(3) 日本国内委員会に提出の際は, 日本語での論文要旨を別添付。

提出いただいた論文要旨は, 日本国内委員会で内容を確認し, その結果を 3月24日(火)までにご連絡いたします。

7. 今後の予定

・査読用論文要旨提出 (ICID 日本国内委員会あて)

2015年3月16日(月)

・査読結果通知

2015年3月24日(火)

・論文要旨提出 (ICID フランス国内委員会あて)

2015年3月29日(日)

(※注 Call for Paper には 2月28日と記載がありますが, 延長されています)

・論文要旨採否の通知 (ICID フランス国内委員会より)

2014年4月1日(水)

・Full Paper 提出 (ICID フランス国内委員会あて)

2014年6月30日(火)

8. 問合せ先

農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室内

ICID 日本国内委員会事務局 担当: 宇野

TEL: 03-3595-6339 FAX: 03-5511-8251

E-mail: jncid@nm.maff.go.jp

水土を拓く 一知の連環一

企画・編集 農業農村工学会「水土を拓く」編集委員会

発行 農山漁村文化協会

学会は「農業土木学会」から「農業農村工学会」への名称変更在先立ち, ビジョン「新たな〈水土の知〉の定礎に向けて」を策定しました。本書はこの〈水土の知〉を古代国家成立(飛鳥時代)から近代までの歴史的歩みを軸に, 各地の農業の展開と国土の開発について, 地域固有の水・土・里を「見きわめる」「使い尽くす」「見定める」「大事にする」「見直す」「見通す」「仲良くする」という7つの視点から整理し, これからの農業農村工学のあり方を探るものです。学会誌創立80周年記念出版事業として刊行されました。

体 裁: B5判 360ページ 上製
定 価: 4,628円(税込・送料学会負担)
会員特価: 4,114円(税込・送料学会負担)

申込先: 公益社団法人 農業農村工学会
FAX: 03-3435-8494 E-mail: suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>